

※詳細は調査レポート (<http://www.sfsi.co.jp/>) をご覧ください。

1. 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

2. 調査の方法

- ・オンライン・アンケート (751社※)
- ・ヒアリング(24社)

※有効回答数423社（回答率56.3%）

3. オンライン・アンケートの集計方法

すべての質問項目についてDI（Diffusion Index）値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

「自社の業況DI値」=（「良い」と回答した企業の割合）

－（「悪い」と回答した企業の割合）

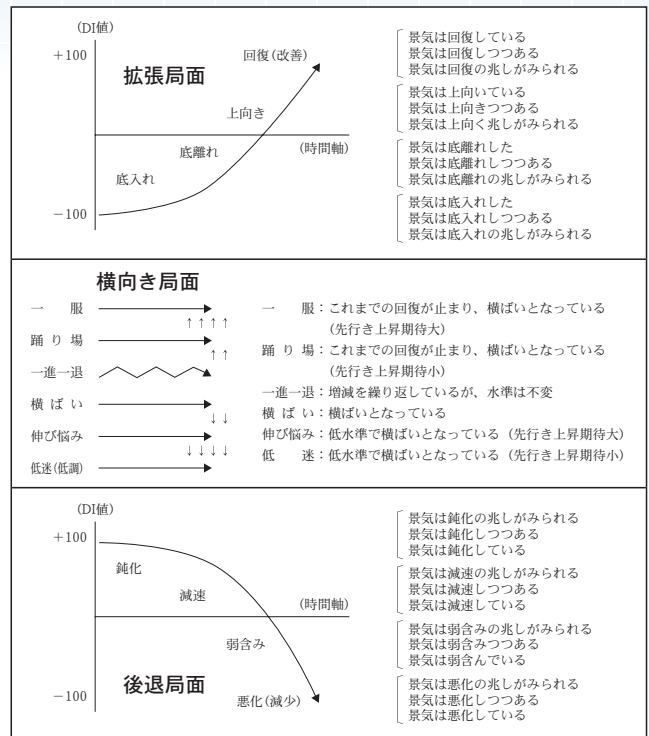
4. 調査期間

- ・オンライン調査：平成19年5月7日(月)～18日(金)
- ・ヒアリング調査：平成19年6月4日(月)～15日(金)

5. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、蛙川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

6. 調凡例用語の凡例



■ 景気の天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値（前年同期比）を5段階に分けて図解したものの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好 調	まあまあ	不 振	きわめて不振
$DI \geq 30$	$30 > DI \geq 10$	$10 > DI \geq 10$	$\blacktriangle 10 > DI \geq \blacktriangle 30$	$\blacktriangle 30 > DI$
				

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

■ 県内企業の景気動向

現状判断：回復基調を維持している。

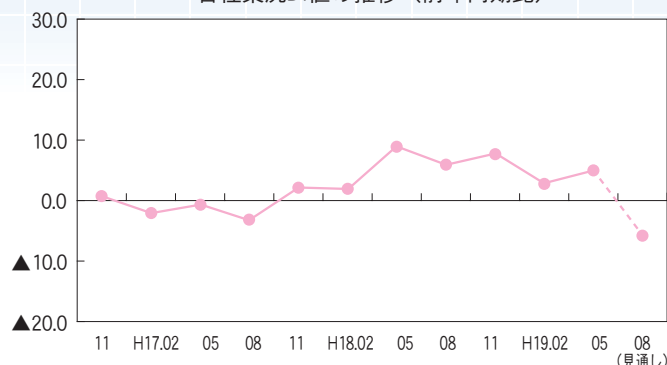
業況は、自社の業況DI値（前年同期比）が5.2となっており、前回よりも2.3ポイント改善するなど、回復基調を維持している。

平成17年8月期を底とし、経常利益DI値が底離れしていることが引き続き業況の回復感につながっている。ただ、5四半期ぶりに売上高DI値がマイナスに転じるなど、やや繁忙感が薄れつつある。

来期の見通し：回復は鈍化する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲6.4となっており、景気回復の足取りは鈍化する見込み。

自社業況DI値の推移（前年同期比）



年	月	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
	02	2.9	▲23.3	3.6	▲10.1	0.5	▲9.3
H19	05	5.2	▲27.4	▲1.2	▲5.9	0.0	▲6.6
	08 (見通し)	▲6.4	▲25.1	▲8.7	▲15.4	▲1.9	▲17.8

■ 業種別の動向

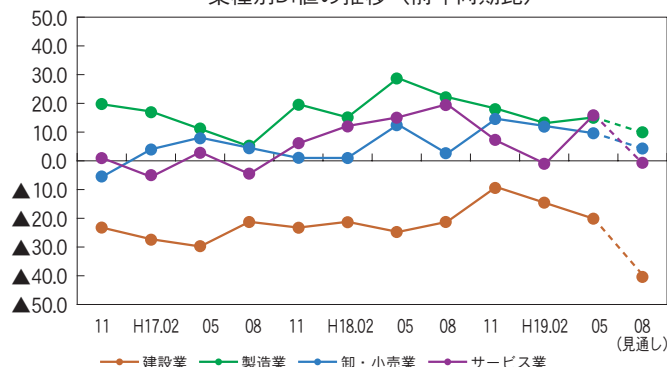
現状判断

業種別では、例年以上に手持工事の不足感を抱いている建設業で低調であったが、製造業と卸・小売業ではそれぞれ程度の差こそあるものの回復基調を維持している。サービス業は特に事業所向けが好調で、一時的に回復を伺わせる展開を見せている。

来期見通し

業種別では、4業種すべてで今期よりも暗い見通しとなっている。中でも建設業のDI値は▲40.0となっており、今期より20.0ポイント低下するなど、依然として先行き不安感は拭えない。また、サービス業では、事業所向けサービス業で先行きに対して慎重な企業も多く、DI値は再びマイナスに転じるなど、一進一退の動きとなっている。

業種別DI値の推移（前年同期比）



年	月	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
	02	▲14.7	13.1	12.0	▲1.2
H19	05	▲20.0	15.1	9.5	16.1
	08 (見通し)	▲40.0	9.5	3.8	▲1.2

■ 地域別の動向

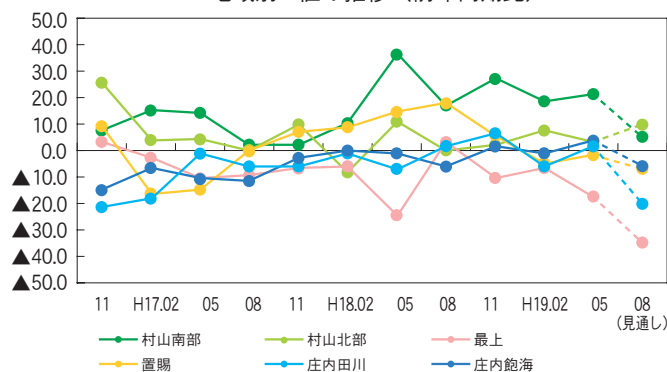
現状判断

地域別では、引き続き最上のDI値が▲17.7と弱含んでいるものの、他の地域に関してはおおむね回復基調となっている。中でも、村山南部が特に好調で、DI値は21.3と最も高い。

来期見通し

村山南部・北部を除く4地域でDI値がマイナスとなるなど、先行きに対する見方は大きく分かれた。特に、庄内田川・鮎海ではDI値が再びマイナスに転じているが、前者は製造業のDI値がマイナス予想となったことが先行き不安感を助長した。また、後者はサービス業の見通しが予想以上に暗かったことなどが、業況の下振れにつながった。

地域別DI値の推移（前年同期比）



年	月	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内鮎海
	02	18.4	7.6	▲7.1	▲5.0	▲6.2	▲1.5
H19	05	21.3	3.1	▲17.7	▲1.8	1.2	3.7
	08 (見通し)	4.6	9.4	▲35.3	▲7.2	▲20.7	▲6.3